

本項のポイント

〈ねらい〉

前項の問題提起を受けて、解決のためにいるいるな取り組みが行われていることを認識させるとともに、自分たちにもできることがないか、話し合います。

〈進め方〉

前項で導き出したさまざまな問題について、本項では、その対策を考えます。

どうすれば草原を守ることができるのか、子どもたちに問題を投げかけた上で、草原に関わっている人たちの考えを紹介します。

本項では、子供たちが理解しやすいよう、直接的に草原に関わっている農家の方と野焼きボランティアの方を取り上げ、紹介しました。人手不足解消のため、ボランティアによる野焼きや輪地切り作業支援が実施されていることも紹介しましょう。小学生は、野焼きボランティアには参加できませんが、他に何か自分たちにできることがないか、話し合しましょう。

先祖から代々受け継がれて守られてきた草原の価値を知り、自分たちの時代に草原がなくなってしまうために、また千年後の未来の人たちに草原を残してあげるためにはどうしたらいいか、じっくり考えてほしいところです。

〈評価〉

草原を守るために様々な人たちが様々な取り組みを行っていることを知り、自分たちにもできることがないか、みんなで話し合い、自分の意見を持たせたか。

本項の問いかけ

〈書き込みには…〉

- ・草原を守るために自分たちにできることはないか、話し合ってから書きます。
→まさかずくんのように身近に牧野組合の人がいれば、作業のお手伝いがしやすいと思いますが、そうでない場合は、どうすればよいでしょう。
- ・子どもたちだけではなかなか思いつかないかもしれないので、ヒントを提示しましょう。
- ・子どもでも参加できるボランティア活動を探して、参加する。

草原を守る

阿蘇の人々は、自分たちの暮らしの中で昔から草原とかわってききました。

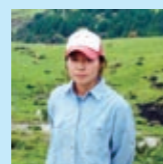
草原とともにあるくらしは、先祖から次の世代へと、長年にわたって受けつがれてきたものです。それは同時に、草原を守ることにつながっているのです。

ところが、今、草原を守ることが難しくなって、草原が減っています。阿蘇の人たちは、そんな草原について、どう考えているのでしょうか。



みんなは、草原にかかわっている人たちに話を聞いてみました。

牧場で働く鎌倉さん

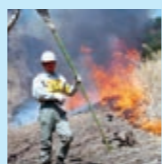


阿蘇の草原を守るためには、ちく産業をさかんにしなければなりません。最近では、農家の後をつぐ人が減っています。若い人が働きたくなくなるような工夫をしていく必要があります。そして、牛の数を増やしていきたいです。



新しい工夫のひとつとして、菊池などから牛をあずかって放牧し、草原を利用しています。

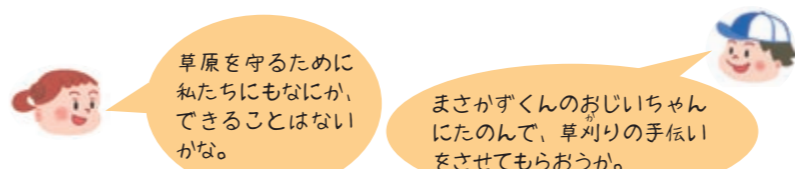
野焼きボランティアの舩尾さん



草原を守るために、何かしたいと思い、野焼きのボランティア活動に参加しました。草原を守っていく作業は、きつくて大変ですが、もっとたくさんの人が草原のことを知って、仲間に加わってくれればと思います。



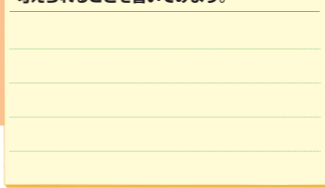
ボランティアには、熊本や福岡市など都市の人たちがたくさん参加しています。



それはいいね。よし、がんばるぞ。

草原を守るためにできること。みんなといっしょにあなたも考えてみよう。

考えられることを書いてみよう。



牛を飼う井さん



私が草刈りをする草原では、春から秋までいろいろな草花がさき、いつも心をなごませてくれます。地元の子どもたちに、私たちの仕事の様子や、たくさんの草花や動物が育つ草原を見てもらい、阿蘇の草原のすばらしさを知ってもらいたいですね。



阿蘇の草原には、なんと600種類もの植物が見られます。

農家の岩下さん



草原の草を肥料にした野菜を育て、草原再生シールをはって売っています。草を利用することが、草原を守ることにつながります。おいしい野菜をたくさんの人に食べてもらいたいです。



草原再生シールをはると、草の肥料で育った野菜であることがひと目でわかります。

確認と発展

●草原を守る取り組み

〈解説〉阿蘇の草原の維持・保全に向けては、地元の人々や都市住民、民間企業、NGO・NPO、大学、関係行政機関などさまざまな人たちが知恵を出し合いながら、また、連携しながら取り組みを進めています。

環境省でも、平成17年度から「阿蘇草原再生事業」をはじめました。その一環として、地元小中学校との協働による草原環境教育の推進に取り組んでいます。本書をはじめ、平成17年度に配布した「草原カレンダー」や「草原新聞」、「子供向けHP」の作成がその一例です。

→詳しくは、草原再生HP <http://www.aso-sougen.com/next/index.html>

また、本項では紹介していませんが、みんなでお金を出し合って草原を買い取って守るナショナルトラストと呼ばれる活動や、石油に代わる燃料用のエネルギー資源として草を利用する研究が、地元の人々を中心に進められています。

→詳しくは、NPO法人阿蘇花野協会HP、NPO法人九州バイオマスフォーラムHP（裏表紙参照）

Q 草原を守るためにどのような取り組みが行われていますか？

A 牛の数を増やすため、他の地域から牛を預かり放牧する。野焼きをする人が減っているので、ボランティアに手伝ってもらおう。など

Q 草の肥料を使って育てた農産物にはどのようなものがありますか？

A イチゴ、トマト、ホウレンソウ、ハクサイ、カブ、ネギ、花卉など
→詳しくは、阿蘇草原再生シール生産者の会HP（裏表紙参照）

語句参照

●草原を守る取り組み（参照先）

- ・草原ハンドブック P.42
- テーマ4：くらしと草原2-草は大切な資源-3. 草原をめぐる問題 (3) 草原を守るために
- ・草原ハンドブック P.59
- テーマ6：くらしと草原3-火とともにあるくらし-1. 野焼き (3) 野焼きの現状 3) 野焼きにボランティアが登場
- ・草原再生HP <http://www.aso-sougen.com/teaching/03.htm>

コラム 野焼き支援ボランティア

阿蘇では、地元の人が行う野焼きや輪地切りなどの作業を手伝うボランティア活動が定着しています。参加者は、熊本市、福岡市など都市に住む人たちが中心です。50代、60代を中心に高校生から70代まで、幅広い年代の人たちが参加しています。

最初の頃は、都会の人の手伝いは足手まといになるし危険だということで、地元の牧野の方々はボランティアの受け入れに戸惑っていたようです。

そこで、事故を防ぎ安全に野焼きを行うために、研修を義務づけることにしました。初心者は、野焼きの役割や仕組み、注意事項や道具の使い方を習得した上でないと参加できません。さらにリーダー研修も行われ、その結果、今では地元農家からも「助かる」「また来て欲しい」といった声がかかるまでに技術レベルも向上し、野焼きや輪地切り作業に欠かせない戦力となっています。

→詳しくは、財団法人阿蘇グリーンストックHPへ（裏表紙参照）